三菱電機 業務用エアコン エラーコード「1302」（高圧異常）原因と点検ガイド

三菱電機の業務用エアコン（ビル用マルチ・店舗用パッケージ等）で「1302」が出たときの原因の見分け方と点検の順番を、国内外の事例調査からまとめた資料です。施設管理者・店舗オーナー・空調技術者の方の参考に。調査：2026年11月

結論：実務の発生頻度は「放熱・風量系の汚れ」が最多。洗浄しても直らない場合は、スイッチ・センサー系が主役に移る。
冷房時の高圧異常＝室外側（熱交換器の汚れ・ファン・ショートサーキット）、暖房時＝室内側（フィルター・室内機の汚れ）が日・海外の業者証言で一致。暖房シーズンの立ち上がり期は、まず室内フィルターを見るのが近道です。

このエラーが出たら：まずは室内機のフィルター清掃と、室外機の吹出口・吸込口に障害物がないかを確認してください（利用者側でできる範囲はここまで）。リセットを繰り返すと圧縮機を傷める恐れがあります。フィルターを清掃しても再発する場合、冷媒回路や圧力センサー側の点検が必要なため、専門業者への相談をおすすめします。

1. 公式定義と検出条件（三菱電機公式）

- **1302＝室外ユニットの高圧圧力異常**（公式FAQ・点検コード検索で確定）。表示違い：店舗用Mr.SLIMは「U1」、PUMY-CP系は「UE」で同じ異常。
- 検出条件（City Multi・R410A系）：運転中 **3.78MPa以上**で停止 → 30分以内の3回目（**3.87MPa以上**）で1302エラー停止。圧力開閉器 **4.15MPa**作動で即停止。※いずれもゲージ圧。数値は機種・冷媒で異なるため対象機マニュアルで要確認。
- **別パターンに注意：**起動直前に圧力センサが **0.098MPa以下**を読む場合も1302が出る。これは「高圧」ではなく、ガス漏れによる内圧低下／センサ被覆やぶれ・ピン抜け・断線の可能性。洗浄では直らない。
- センサ切り分け基準：**停止・均圧状態**でゲージ実圧と表示圧を比べ、差が **0.098MPa以内**ならセンサ・基板は正常側（運転中の圧力にそのまま適用しない）。

2. 結果的に原因が判明した事例（国内外）

事例	症状・経緯	結果的に判明した原因 → 対処
三菱VRF 1302（海外・Instagram技術者投稿）	12馬力VRFで1302、高圧 約500psi。コンデンサコイル交換後に発生	**ロウ付け過熱でストレーナーが閉塞**し冷媒回路が詰まった（施工不良）。→ **工事履歴がある1302は風量系より先に詰まりを疑う**
三菱1302 国内事例	原因確定まで書かれた国内の修理ブログ・YouTube動画は、徹底調査でもほぼ皆無。国内で見つかったのは修理メニュー（1302→室内機分解洗浄の提示）と高圧カット一般のコラムのみ。これが実情。	
高圧停止の実測例（田崎設備・日立チラー）	34°Cの日に停止、再起動10分で再停止。高圧3.7MPa超で異常停止、コンデンサ汚れが顕著	**室外熱交換器の汚れによる熱交換不良** → 洗浄で高圧 **3.7→2.65MPa**、吐出温度 94→79.5°Cに改善
ダイキンE3 動画×3件（Mitch Attwood／HVACR AUS）	E3（高圧スイッチ作動）。実圧は正常なのに停止、「前回異常なし」の再発も	**高圧圧力スイッチ自体の不良**（間欠オープン／開いたまま固着）→ スイッチ交換
ダイキンE3 動画（Bon Mj）	VRV3でE3・JA・JCを併発	**高圧圧力センサーの不良** → センサ点検・交換
ダイキンE3 動画（Bon Mj）	天カセ＋室外機RZR60でE3	**室外熱交換器コイルの汚れ・詰まり** → コイル清掃後、圧力低下・電流正常化を確認

読み方の注意：動画で原因確定した6件ではスイッチ／センサー系が4件と目立つが、これは「診断の見せ場がある故障が動画になりやすい」公開バイアス。現場件数ベースの業者証言（伊藤テクノ、Lion City、ABC Air）は日・海外とも「汚れが最多」で一致している。ファンモーター不良・過充填・膨張弁不良が原因確定した動画は本調査では0件（一般論の言及のみ）。

3. 原因の傾向まとめ

- **第1位（実務頻度）：放熱・風量系** ― 室外熱交換器の汚れ、室内フィルター目詰まり、ファン不良、ショートサーキット。
- **条件付きで主役交代：**「洗っても直らない」「運転前に即立つ」「前回異常なしの間欠再発」→ 高圧スイッチ／圧力センサー／基板入力回路。
- **工事・修理履歴がある場合：**冷媒過充填とストレーナー／配管詰まりを上位へ（ロウ付け・コイル交換・冷媒追加の直後は特に）。
- **起動直前型（センサ読み≤0.098MPa）：**漏れによる内圧低下／センサー系。洗浄ルートとは別に切り分ける。

現場点検チェックリスト ― 1302／高圧異常

優先順：まず「本当に高圧なのか、センサーが嘘をついているのか」を分ける。無計測の繰り返しリセットはしない（圧縮機保護）。

Step 0：安全と記録（5分）

☐ エラーコード全文（1302／1402、併発コード5201等）と室外機アドレスを記録
☐ 系統を確認（BCコントローラ付き熱回収型かどうかで Step 3 が変わる）
☐ 運転モード（冷房／暖房）、発生タイミング（起動直後／運転○分後）、再始動での挙動をヒアリング・再現確認
☐ 記録項目：外気温、停止までの運転分数、吐出温度、運転中／停止中の室内機の内訳、吸込・吹出温度

Step 1A：目視クイック確認（工具なし・先に当てる）

☐ **室内フィルターの目詰まり**（暖房時は最優先）
☐ 室外熱交換器の汚れ・目詰まり（裏側・フィンの奥。光が通るか）
☐ 室外ファンが回るか、回転が弱くないか
☐ 吹出・吸込の障害物、ショートサーキットの兆候（囲い・増設・隣接機の排熱）
☐ ボールバルブ／サービスバルブ／閉鎖弁が全開か（据付・修理直後は最頻級）

Step 1B：実圧か、センサの嘘か（最重要の分岐）

☐ マニホールドゲージの実高圧と、室外機表示のセンサ圧を突合せ。**停止・均圧状態で比べ、差0.098MPa以内ならセンサ・基板は正常側**
☐ リセット直後・圧縮機が回る前に即1302 → スイッチ／センサー／コネクタ／基板入力回路を疑う。高圧スイッチは停止状態で導通（通常・閉）を測る
☐ 起動前にセンサ読みが0.098MPa以下 → 漏れによる内圧低下、センサ被覆やぶれ・ピン抜け・断線のルートへ

Step 2：運転中に高圧が上がる場合 ― モード別に放熱・風量

☐ **暖房時：**室内フィルター、室内ファンの汚れ・風量低下、室内熱交換器の汚れ、室内ファン不良、室内ショートサイクル
☐ **冷房時：**室外熱交換器の汚れ（清掃前後で高圧を記録。実測例では洗浄で3.7→2.65MPa）、室外ファン不良、ショートサーキット（吸込温度の実測）
☐ 室内外の吹出口・吸込口の障害物、閉め切った室内機がないか

Step 3：冷媒回路（バルブ・弁・詰まり）

☐ 室内LEV、室外LEV2、電磁弁（SV1a含む）の作動を冷房／暖房を切り替えて確認（BC・電磁弁の一部はBC付き系統のみ）
☐ **最近の工事履歴がある場合：**ストレーナー／ドライヤの詰まり、ロウ付け箇所の詰まり。配管各部の温度分布で当たりを付ける
☐ サーミスタTH3／TH7の取付・抵抗値、圧力開閉器コネクタの抜け・断線

Step 4：冷媒量

☐ 過充填の有無（追加充填の履歴。別コード1500＝冷媒過充填の履歴も確認）
☐ 不凝縮ガス（空気）混入の疑い（真空引き不良の履歴がある場合）
☐ 冷媒の抜き差しは回収・計量を伴う手順でのみ。安定運転できない現場では履歴で当たりを付ける

Step 5：電気・制御系（上記で説明が付かない場合）

☐ 圧力センサ単体の良否（ゲージとの比較で確定）／高圧スイッチ単体の良否（間欠オープンは長時間モニタで捕まえる）
☐ メイン基板の圧力センサ入力回路（センサコネクタを外した時の表示値で切り分け）
☐ 電源電圧（TB1）、ポートアドレス設定（ビルマルチ）

持ち物メモ

マニホールドゲージ（必須）／テスター／クランプメーター／表面・放射温度計／フィルター・コイル洗浄用品／懐中電灯（フィンの透け確認）／対象機サービスマニュアル（点検モード表示手順）／脚立／記録用チェックシート

出典：三菱電機公式FAQ・点検コード検索・技術マニュアル、ダイキンプロショップE3解説、各事例の出典URLは調査レポート全文に記載。圧力閾値はR410A City Multiハンドブックの値で、対象機がR32・スリム・旧冷媒機の場合は異なる。内容は第二の視点によるクロスチェック済み。本資料は一般的な情報提供を目的としたもので、個別機種の診断は対象機のサービスマニュアルと現場計測に基づき行ってください。
発行：R&Cサービス合同会社（rac55.net） ― 業務用エアコンのクリーニング・修理・フロン回収